

キュウリ褐斑病、うどんこ病、べと病の発生に対する接木の影響と品種間差異

[要約] キュウリ褐斑病及びうどんこ病の発生は、自根栽培よりブルームレス台木を用いた接木栽培で多く、さらに接木栽培では、「シャープ 1」と比較して、「ハイ・グリーン 22」と「ハイ・グリーン 21」で多く、「グリーンラックス 2」では褐斑病はやや多いが、うどんこ病は同等である。べと病の発生は、品種間及び接木の有無における差異はない。

農業総合センター園芸研究所

成果区分

普及（情報）

1. 背景とねらい

近年、県内のキュウリ促成栽培においてキュウリ褐斑病が多発生して問題となり、その要因の一つとしてキュウリ品種の変遷が挙げられている。そこで、促成栽培において過去に主力品種として用いられていた「シャープ 1」と、近年の主力品種である「ハイ・グリーン 22」、「ハイ・グリーン 21」及び「グリーンラックス 2」におけるキュウリ褐斑病、うどんこ病及びべと病の発生差異を明らかにする。

2. 成果の内容・特徴

- 1) キュウリ褐斑病の発生は、キュウリ 4 品種とも自根栽培よりもブルームレス台木を用いた接木栽培で多い（表 1）。
- 2) 接木栽培におけるキュウリ褐斑病の発生は、「シャープ 1」と比較して「グリーンラックス 2」でやや多く、「ハイ・グリーン 22」、「ハイ・グリーン 21」では多い（表 1）
- 3) キュウリうどんこ病の発生は、キュウリ 4 品種とも自根栽培よりもブルームレス台木を用いた接木栽培で多い（表 2）。
- 4) 接木栽培におけるキュウリうどんこ病の発生は、「シャープ 1」と比較して「グリーンラックス 2」で同等、「ハイ・グリーン 22」、「ハイ・グリーン 21」では多い（表 2）。
- 5) キュウリべと病の発生は、自根栽培と接木栽培で差はなく、また 4 品種間でも同等である（表 3）。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本成果は品種選定指導の資料として活用できる。
- 2) 本試験で供試したブルームレス台木は「エキサイト一輝」である。
- 3) いずれの品種でも褐斑病、うどんこ病、べと病は多発生になると防除が困難になるため、発生が認められたら、直ちに薬剤を散布する。

4. 具体的なデータ

表1 キュウリ品種間及び接木の有無における褐斑病の発生差異

接木の有無	品種	発病葉率 (%)	発病度 ¹⁾
自根	シャープ 1	35	10
	グリーンラックス 2	40	12
	ハイ・グリーン 22	41	14
	ハイ・グリーン 21	64	21
接木	シャープ 1	48	17
	グリーンラックス 2	69	24
	ハイ・グリーン 22	92	51
	ハイ・グリーン 21	93	55

1) 発病度 = { Σ (発病指数 × 発病指数別葉数) / (4 × 調査葉数) } × 100 (調査葉数…自根区:55~66 葉、接木区:92~106 葉 発病指数…0:発病なし、1:病斑がわずかに認められる、2:葉面積の 1/4 未満、3:葉面積の 1/4~1/2 未満、4:葉面積の 1/2 以上)

表2 キュウリ品種間及び接木の有無におけるうどんこ病の発生差異

接木の有無	品種	発病葉率 (%)	発病度 ¹⁾
自根	シャープ 1	44	13
	グリーンラックス 2	57	17
	ハイ・グリーン 22	52	14
	ハイ・グリーン 21	57	16
接木	シャープ 1	61	28
	グリーンラックス 2	60	30
	ハイ・グリーン 22	77	47
	ハイ・グリーン 21	80	46

1) 表 1 参照

表3 キュウリ品種間及び接木の有無におけるべと病の発生差異

接木の有無	品種	発病葉率 (%)	発病度 ¹⁾
自根	シャープ 1	75	37
	グリーンラックス 2	73	40
	ハイ・グリーン 22	74	42
	ハイ・グリーン 21	75	41
接木	シャープ 1	71	36
	グリーンラックス 2	76	37
	ハイ・グリーン 22	76	41
	ハイ・グリーン 21	81	41

1) 表 1 参照

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

キュウリ褐斑病の多発生要因の解明と防除法の確立・平成 17~平成 19 年度・病虫研究室